５）マルチャー（マルチ敷設機）

(1) 用　途

畝又は圃場全面にマルチを敷設するのに使用する。（マルチとは、地温調節、乾燥防止、雑草抑制、土壌中の病原菌の茎葉への伝染防止などのために、ポリエチレン・フィルムなどで圃場の表面を被覆すること。）

(2) 構　造

畝立てした後、マルチ掛けのみを行うけん引マルチャーと、畝立てしながら同時にマルチ掛けを行う畝立同時マルチャーとがあり、後者の方が多くなっている。けん引マルチャーにはトンネル・マルチャーが、また、同時マルチャーには全面マルチャーもある。平畝用マルチャーの構造は、フレーム、溝切り器、フィルム押さえ車輪、覆土器などからなり、作業幅が調節できるようになっている。フィルムはフィルム掛けに装着され、溝切り器でフィルムの裾を埋設するための溝開けを行い、フィルム押さえ車輪（スポンジ輪）でフィルムの繰出しを助けながら両裾を押さえ、覆土円板で覆土する仕組みとなっている。

高畝用マルチャーは、平畝用と構造的に大差はないが、フィルムの装着位置が高いので、ガイド稈やローラーで畝形に合わせてフィルムの繰出しを助けるようになっている。平畝用の部品交換により高畝と兼用になっているものもある。フィルムの横方向の張りはフィルム押さえ車輪（スポンジ輪）で、また、畝方向の張りはフィルムの繰出軸のブレーキで調節できるようになっている。 全面マルチャーは、フィルムの裾を重ねながら圃場全面をフィルムで覆う機械であり、畝立て、マルチ掛け、土掛け（コンベアで土を揚げ一定間隔でフィルムに土を載せる）を１行程で行えるものもある。

なお、マルチ・フィルムには、透明、黒色、穴あきフィルムなどがある。透明フィルムでは幅 70～230㎝ 、長さ 200ｍ 程度のものがあるが、左右の裾の覆土部分として 15～20㎝ を見込む必要がある。

(3) 取扱い上の留意点

マルチャー作業では、特に直進性が要求され、蛇行するとフィルムの片引きや弛みが生じる、また、風の日は風上から風下へ向かって作業し、フィルム内に風が入らないように注意する。

(4) 安全作業のポイント

① トラクターと本機両者の取扱説明書や安全ラベルを良く読み理解する。ＰＴＯ軸や可動部のカバーは常に所定の位置に付けておく。

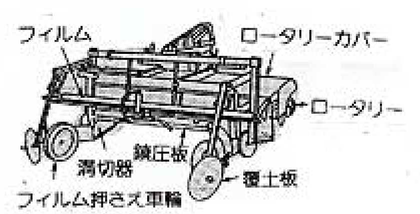
② 点検・調整・修理は、必ずトラクターのエンジンを止めてから行う。

③ 着脱時には作業機との間の挟まれや押し潰されに注意する。

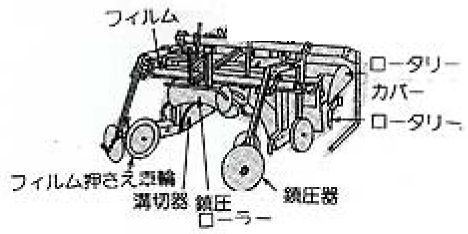
④ 始動、発進、後進時には必ず周囲に人がいないことを確認する。

⑤ 移動時には他車との追突や接触に注意する（予防対策として反射材などを活用する）。

⑥ 補助者を含めてＰＴＯ軸やロータリー軸などへの巻きこまれに注意する。



平畝畝立同寿マルチャー



高畝畝立同時マルチャー


全面マルチャー